



情報リテラシー

リテラシー (literacy): literacyとは読み書きの能力のこと。したがって、情報リテラシーとは、情報の読み書き能力のこと。すなわち、「既存の情報にアクセスし、選択し、分析し、評価し、活用し、かつ自ら情報が創りだす能力」といえる。

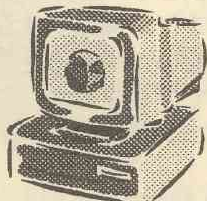
主な内容：図書館における情報リテラシー、文献検索講習会の報告、書評、所蔵 CD-ROM の紹介
書架の増設について、エッセイ

情報リテラシー 1

図書館における情報リテラシー

6月4日から28日にかけて、計7回の文献検索に関する講習会が、本学図書館で行われました。

情報検索の講習については、以前から学生教員の皆さんの要望が高く、図書館もなんとかお応えしなければ、と考えていました。受講者にとっては不十分であったかもしれませんが、今回図書委員会からの発案で実施した新しい試みは、これからの図書館のあり方にまでかかわる重要な出来事だったと思います。



ところで最近の図書館関連の会議では必ずといっていいほど「情報リテラシー」という言葉が出てきます。広義には「情報とは？」といった大きな内容を含んでいると思いますが、具体的にはコンピュータを使っての情報検索教育が主で、それ故に「情報リテラシー」の前に「コンピュータリテラシー」がきてしまうのが実状です。本学図書館でもコンピュータによる蔵書の検索、文献検索などが可能です。もちろん図書館などといわなくとも、どこでもインターネット上のさまざまな情報を、誰もが日常的に検索し、利用しているのではないのでしょうか。従来からの冊子体の情報誌もあります。このよう

図書館長 関谷伸一

な情報をいかに的確に収集していくかを学ぶことが重要になるわけです。コンピュータのおかげで、操作に慣れてしまえば、あっという間に大量の情報が入手できます。もっともその後、それらを自分の脳を使って処理するのが大変ですが…。



最近聞いた話に「学生のレポートを見るとインターネットで検索した情報が満載で、どのレポートも同じような内容で実につまらない」というのがありました。情報検索教育の前に、ちゃんと読み書きができるように教育しなければならない、というもったもな意見もあります。また研究者は論文を書くとき大慌てで文献検索をやり、複写依頼をし……と、耳の痛くなるような話もあります。日常的に論文を探し、読み、常に新しい情報を収集する姿勢こそ大事です。自由に情報が得られる時代になったからこそ、情報をしっかり吟味する能力が問われるのではないのでしょうか。

知らなかったことを知る喜びは何にも代えがたいものです。学生の皆さん、図書館は宝の山です。ぜひ探索に来て下さい。

係員からのお願いその1 返却のときは、返却日カードが抜けていないか確認してください。

情報リテラシー 2

文献検索講習会の報告

司書 吉原貴子

図書館で行った文献検索指導は、助産学専攻科に対する文献検索指導と館内で実施した“文献検索講習会”の2件です。どちらも当館における具体的な検索方法と文献入手方法を習得することを目的としました。以下にそれらの報告をします。

(1) 助産学専攻科に対する文献検索指導

- | |
|--|
| ① 実施日時：平成13年5月2日。「助産学研究」中の1コマ使用。 |
| ② 実施に至る経緯：毎年、担当教員からの要望により実施 |
| ③ 参加対象者：助産学専攻科全員 |
| ④ 内容：ビデオ『新・看護と図書館』上巻の上映（文献検索の必要性、代表的なデータベースの |

検索例)、当館所蔵の索引誌の紹介と選び方、コンピュータ(オンライン)検索の紹介と注意点、『医学中央雑誌』・『日本看護関係文献集』の検索方法、文献複写の入手方法。

(2) 文献検索講習会

- ① 実施日時: 6月4,12,15,19,22,25,28日の計7回実施。午後4時10分から約1時間。毎回同じ内容。
- ② 実施に至る経緯: 今年の図書館運営方針に「使いやすい図書館を目指すこと」を挙げている。その一環として図書委員会と図書館で計画。
- ③ 参加対象者: 主に3年生と地域専攻科生を対象としたが、2年生と教員からも1名ずつの参加があった。参加者は46名。
- ④ 内容: ビデオの上映を除き、助産学専攻科の内容と同じ。資料に『医学中央雑誌 CD-ROM』の具体的な検索の流れ(操作方法)を加えた。

(3) 実施した感想

助産学専攻科生からは指導後に感想を自由に書いてもらいました。冊子体の検索よりコンピュータ検索を中心に指導しましたが、まだ「操作が難しい」や「頭では理解しても実際にうまく検索できるか不安だ」という意見がありました。コンピュータ検索は「慣れ」が大事なことを説明し、とすれば検索手順の簡便さに気を取られ、十分な検索を行わない場合が予想できるので、手間を惜しまないことを強調しました。学生にとっては「自分の求める情報を表すキーワードを考える」ことが難しいようでした。分からないところはその都度係員に遠慮なく質問するように伝えましたが、「(検索したことが無いので)何が分からないかが分からない」という意見がありました。今まで文献収集の必要性を実感せずに来た学生の意識を変える必要があると思いました。

時間的には放課後の短い時間に行うよりも講義の1コマを使用できた方が、学生が集中でき、また全員が確実に参加できるメリットがありました。内容としては、学生の文献検索に対する理解度や習熟度が前もって分からない状態だったため、文献検索の必要性(助産学専攻科で上映したビデオ)については助産学専攻科のみ時間があつたので盛り込みました。1回限りで終わることを考えるとどうしても情報源の紹介や検索手順・入手方法の説明ばかりに終始してしまいました。



本来「文献検索」は論文作成や問題解決のプロセスの一部に過ぎません。学生が実際に問題を抱えたとき、適切な情報源を選択し、検索手順を頭に組み立て実行し、収集した文献から問題の解決策を考えるために必要な技術です。参加者が今後文献検索をそのように実施していくことが理想ですが、今回の講習だけでは内容的・時間的に不十分であったと思います。また、それを図書館だけで行うにも限界があります。図書館だけで行うならば、実技を中心に「索引誌の引き方」「パソコン操作」等複数回に分けて実施するほうが効率が良いと思います。

そのように放課後に実施できる内容は当館が所蔵する情報源の紹介・実習で終わってしまいます。講義の中で課題やレポートと結びつけ、教員と協力して文献検索指導が行えれば、学生の理解もより深まると思います。

連載企画 1. 書評

『ヒューマンエラーの心理学』大山正、丸山康則編、駒澤大学出版会 2000

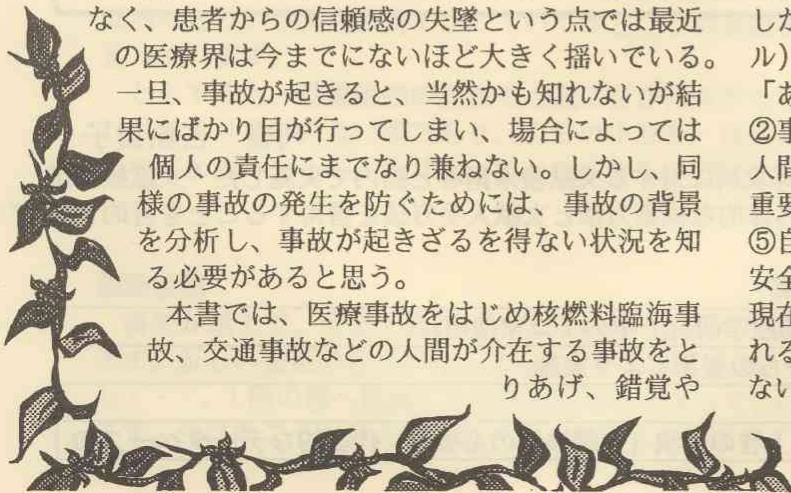
教授 深澤佳代子

採血ミス事件や褥創裁判などは医療事故の判例として代表的なものであった。1999年の横浜市立大学病院の患者取り違え事故以来、多種多様の医療事故がマスコミに取り上げられないことは殆どなく、患者からの信頼感の失墜という点では最近の医療界は今までにないほど大きく揺れている。一旦、事故が起きると、当然かも知れないが結果にばかり目が行ってしまい、場合によっては個人の責任にまでなり兼ねない。しかし、同様の事故の発生を防ぐためには、事故の背景を分析し、事故が起きざるを得ない状況を知る必要があると思う。

本書では、医療事故をはじめ核燃料臨海事故、交通事故などの人間が介在する事故をとりあげ、錯覚や

注意力の限界など人間の心理特性から分析を行ない、対策まで導いている。特に、医療事故の項では、小さなミスが雪山を転がるように大きくなり(スノーボールモデル)、個人個人の小さな見落としが集まると穴だらけになる(スイスチーズモデル)など、事故の起きる経緯もわかりやすい。

「あとがき」にある①ひとはエラーをするもの②事故調査の重要性、事故からの学びの重要性③人間の立場での情報や器械システムとの取組みの重要性④組織をいきいきした雰囲気満たすこと⑤自分から進んで安全行動をすること⑥政治上の安全対策の設置⑦より広い視点に立つ必要性等は現在の医療事故防止対策のありかたを考えさせられる。心理学だから、法律的な難しい話は出て来ないので、読みやすいのではないかと思う。是非、一読して欲しい一冊である。



A.D.A.M.シリーズ (CD-ROM)

『A.D.A.M. Interactive Anatomy』 『A.D.A.M. obstetrics & gynecology』

『A.D.A.M. the inside story 1997』 『Nine month miracle』 (カウンターで保管)

助手 森本美智子

学生の皆さん、授業のなかで、解剖学の部位を覚えるのは教科書だけでは、平面的過ぎてなかなかイメージ出来にくくて困っているのではないのでしょうか？

そこで、とっても素晴らしい教材が図書館にありますので、皆さん是非試してみてください。それは、アメリカの CD-ROM で、タイトルは A.D.A.M. (アダム) と言い、本学図書館には全部で 4 枚あります。

今回は、私が A.D.A.M. を実際使用しての感想を述べてみます。

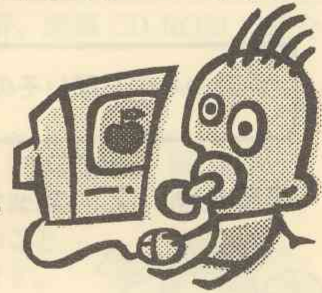
解剖の部位を立体的に調べるために図書館に行き、何か良い資料はないかと司書の方に尋ねたところ、A.D.A.M. の利用を勧められました。その CD-ROM を開いた時に驚いたこと。それはまるで自分が宇宙へ引きずり込まれたような錯覚に陥りました。また、コンピュータゲームでも行っているように人体解剖の映像が次々と変化し楽しみながら学習できます。

その中の 1 枚『Interactive Anatomy』の 3D については、心臓の画面をクリックすると心臓の角度が自由に変更でき、どの角度からも見る事が出来ます。例えば肺動脈をクリックするとその周囲が青く点滅し、また心臓の内部の弁が何処の場所にあるか調べたい場合、ポイントをクリックするだけで形・方向を立体的に具体的に詳細を映し出し、それはまる



で SF 映画のシーンを見ているようでした。肺や頭蓋骨については、同様に内部を自由に動かせ、それらの中に入り込み、まるで自由に飛行船で人体内を遊泳旅行しているようでした。平面図においても部位をクリックすると、その部位が直ぐわかり、皮膚から筋肉、血管、内部の様々な臓器に至るまで確認、理解しやすくなっています。

産婦人科系の解剖については、女性の生殖器からベビーの誕生まで、そして手術法まで学習できるようになっています。特に『9 month miracle』は、ベビーが月ごとに大きくなり、子宮内で成長して分娩に至る様子がまるで本当に生きているような画像で映し出され、立体的にイメージ出来て本当に感動しました。これは、母性、助産の学習をしている方に特にお勧めです。



以上のことから、A.D.A.M. の利点として、人体解剖が立体・平面画像でより視覚的に訴えかけられるので、教科書の図よりも理解しやすいと考えられます。また人体解剖用語が英語表示されますので英語の勉強にもなります。生理学についての CD-ROM は関谷教授の研究室にもありますので、是非興味のある方は A.D.A.M. を使って勉強しましょう。お勧めです。

お知らせ

書架の増設について

8月6日～8日にかけて、図書館の書架を増設しました。

これは平成 14 年度に開学予定の県立看護大学のために購入される図書を配架するために増設されたものです。実際の図書は、四年計画で一万冊購入される予定です。そのため、今回の増設で開架（利用者が自由に図書を手に取れる式の書架）スペースを増やせるだけの書架を増やし、約九千冊分の書架が増えました。

① 大型本架 (6 連 4 段)

ソファの置いてあるコーナーの壁に大型本用の書架を入れました。ここには主に調べものや文献検索を行う際に利用する辞書や辞典などの大型図書を入れる予定です。

② 差込み雑誌架

①の左の壁には差込み式の書架を入れました。ここにはパンフレットや広報紙、見本で送られてくる雑誌などを継続購読している雑誌と区別して入れる予定です。

③ 窓下書架 (8 連 2 段 R 型) 2 台

1 階の窓下に 2 箇所書架を入れました。ここには大型の図書を入れたり、ある特定テーマ・形態の図書のコーナーにする予定です。

④ 雑誌架 (5 列 5 段)

最新号が入っている雑誌架をさらに 25 誌分増やしました。これにより今まで主に購読雑誌を配架していましたが、寄贈で送られてくる専門誌にも対応できるようになります。

⑤ 複式直立書架

1階の複式書架を全列窓に向けて延長しました。柱部分は4連延長し、他は1連延長しました。

⑥ 文庫・新書コーナー

文庫・新書コーナーの書架は天井に向けて2段高くしました。

⑦ 2階の増設書架

2階については、階段を上ってすぐのところにR型書架を入れました。また今まであった書架は、天井に向けて2段ずつ延長しました。奥つきあたりの空いていた壁にも書架を入れました。

今回初めて入った書架に何を配架するかは現段階での予測として挙げておきました。今後も変更の可能性はありますし、検討していく必要があると思います。

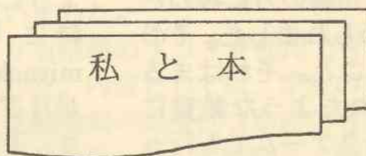
結果的に、1階のテーブル3台、椅子が12席、ソファも半分ほど減ることになりました。学習スペースが減りましたが、その不便さは資料の充実で補いたいと思います。

使いやすい図書館、図書の内容がわかりやすいことを念頭に今後も配置を考えていこうと思います。

係員からのお願いその2

飲食物や傘のなど、学習に不要なものは持ちこまないで下さい。

連載企画 2. エッセイ



本と遊びましょう!

助手 山元智穂

「この週末は本と遊んでた。」と私が言ったら・・・。「おかしいんじゃないだろうか」「友達いないんじゃないの?」と思われるでしょうか。しかしこの友人、自分の都合のいい時に会ってくれて、途中他のことを始めても静かに見守っていてくれて、非常に寛大な友人であります。

やらなければならないことに追い込まれた時、大体私の隣にはこの友人が一人か二人いてくれます。難しい医学書で勉強しながら、横にいる友人(ほとんどが小説やエッセイ)に時に励まされ、時に檄を飛ばされながら、勉強しています。

本って私達の味方になってくれるものです。「味方してほしい」という願いも込めてすすめられることが学生の間には多かったように思いますが・・・。それぞれの味方になる本を見つけ下さい。ちなみに私が本を買う(借りる)時は、「相性」です。

20代に向かう皆さんが、人生の味方となる素敵な本にめぐり合えること、祈っています。



本から得たもの

010049 和久井君江

この学校に通うようになって私が思ったのは、どんなふうに学んでいったらいいのだろうということでした。そんなときに手に取ったのが、立花隆の「脳を鍛える」です。この本は、96年に彼が東大で実際に講義したものを練り直し、書き改めたもので、大学生を対象としているため、他の彼の著作より幾分読みやすくなっています。

彼はこの本の中で、大学まで来たら、点数の競争ではなく実力勝負だ。一番大切なのは、自分自身を知的にどういう人間に育て上げていくかという将来設計を考え、計画を練り、実践していくことだ、と言っています。

ともすると、受験勉強の延長で点数に目が行きがちだったり、人と比較しがちな私です。しかし、それはあまり意味のない事であり、自分の中身を、自分自身で計画を立てて充実させていく事の方が重要なのだと思いました。私にとって、これからの学び方をさらに深めて考えられた一冊でした。

編集後記

書架が増えて、今まで低かった部分も天井に高くなり、「大学の書架らしくなったなあ」と感じています。新しい書架の香りがぶんぶんしているのですが、係員の鼻はもう慣れてしまって何もわかりません・・・。1階の窓へ延長した場所が区切りとなって、「部屋が3つできたようだ」と館長はおっしゃいます。今は向こうが見えていますが、本で埋まればすごい眺めになるだろうと思うと楽しみです。(Y)